



刊夕日五十月十

發行編輯 川崎文治
印刷所 常盤每日新聞社

定価 一月五元 三月十三元 半年二十五元 一年五十元
代金 郵送料 五割増 印刷所 常盤毎日新聞社

川柳龍

(第二回課題)
△鏡、△内談、△義術、△活用、△繩、各題三句吐
用紙ハガキ
切十月二十日着封
発表
十月二十八日日本紙上ニテ
投句所
平町一丁目二〇編引方 平吟社
同人氏名
片寄文狂、渡邊一角、綿引、東天紅、新島新坊

渡邊藥局

平町三丁目
渡邊政五郎
(郵便局向)

是非

粹で上品な履物を御求めの際は
三井履物店
平町三丁目 電話一五六番

御案内

一、冬衣各種特價提供
二、毛糸製品各種取揃へました
三、毛糸各種各色が取そろへました
三、編物界の王千葉富美先生著
毛糸編物研究 60銭
弊店毛糸部にて販賣致します
海岸線平町
三井呉服店

今冬の流行品が

「澤山揃ひました」
「経済的」
「ガクセイ」も服
澤山揃ひました
一年生用 三八〇〇
二年生用 四四〇〇
三年生用 四四〇〇
四年生用 四四〇〇
五年生用 四四〇〇
六年生用 四四〇〇
中用 四四〇〇
警城平(電話二〇三番)より
なかや洋服店
(大)

十三夜 (四)

寄書
満壽莊
後の月刈田の中の徑かな
水涸れて池のいづみや後
の月 蕪村
ホウ少し肌寒くなつて来た
折角の酔も醒めて来たぞ
酔さめて竹もる月や十三
夜 抱一
ハテ錠陰の人聲も聞わな
なつた皆引込んだのか
野人皆もどりて後の月見

かな 維駒
オヤ雁の聲が聲えるぞ竿に
なれ鍵になれ数は何羽か
飛ぶ雁の影や凡そ十三夜
あれ〜あの雁共が向の田
へ下りるよ
雁も田に居なじむ頃や十
三夜 抱一
イヤめつきり寒くなつた歸
りませう〜
後の月鼻つまらせて戻り
けり 一陽
座敷は杯盤狼藉のまゝ今の
世の有難さは草の庵も電燈
なればこそよけれ昔ならば
さき〜す行灯にあり後
の月 二柳

あらうさて寝ようかな去な
がら名残も惜まれて
後の月小窓をあけて人と
見る 素枝
夜明ければとて名残つきね
ば
物事の満るはいやし十三
夜 宋阿
と思ひ捨てふすま引かつ
ぐとてふと思ひ出らるゝは
須賀川の俳人山野邊清民の
句である
満つる夜のあるを名残や
十三夜 清民
頭を上ぐれば月天心にあり
今迄の仕草は月見つゝ吾妄
想ならけるも可笑かりけり
後の月歌膝寒ふ更にけり
満壽莊

特別大公開

改題 封切 七日戀して... 古巢は戀し

川實 延松 主演 三傳 來毛 九尾 演
玉藻前 義太夫 新田 演
嵐璃 實徳 川延松 主演
天朝 比奈 下天 演
其 全 他 卷 全

サーカス團の一大裏面史
有聲座
新加入説明者松平夢世 電話三十一番

露披御

獵銃製造工場
新設致シマシテ各般獵銃、空氣銃
ノ新調及修理ノ御要求ニ應ジ價格ヲ
最低廉ニ日限確實、小修理等ハ御
待合ノ内ニ調製致シマスカラ何卒御
用命ノ程ヲ御願ヒ申上マサ尚書書カ
電話デオ問合セ次第御返事シマス

森合齒科醫院
平町白銀町通り

吉田眼科醫院

町平
町星船
從來當地方ニ銃砲製造修理所ナク皆
様々多額ノ費用ト御不自由トニ煩ハ
サレタ事ヲ遺憾ニ堪エマセンデシタ
ガ弊店ハ平素ノ御高庇ニ酬ヒ度ク存
ジ萬難ヲ排シ横濱、東京各銃器工場
カラ腕ノ勝レタル技術者ヲ招キ工場

目一町平城警
内店藥火砲銃平社資合
所造製砲銃邊渡

電話 一四四番

式賣買中値

電話に金融致します

銘格 拂込 時價

警城銀行 五〇、〇 六八、〇
平銀行 五〇、〇 六八、〇
警越銀行 一一、五 一〇、五
警城實業 五〇、〇 四二、〇
警城實新 三〇、〇 二八、〇
田村實銀 一一、五 一一、五
四倉銀行 一七、五 一七、五
農工銀行 二〇、〇 二五、〇
同新 一五、〇 一九、〇
百七銀行 五〇、〇 五五、〇
同新 一一、五 一六、〇
七十七銀行 一一、五 九、八
郡山電氣 五〇、〇 四二、〇
同新 二五、〇 一九、五
只見川電 一一、五 七、五
植田水電 一一、五 一三、〇
好問水電 一一、五 一三、〇
警城製菓 二〇、〇 二五、〇
平信託 五〇、〇 二五、〇
警城物産 一一、五 一三、五
植田物産 三〇、〇 二六、〇
平製水 五〇、〇 一八、〇
好問軌道 五〇、〇 三〇、〇
入山新 三二、五 一七、〇
小田炭礦 二五、〇 五、〇
警城炭礦 五〇、〇 四一、〇
同新 三二、五 一八、〇
警城セメン 五〇、〇 六二、五
同新 三三、〇 四二、〇
平運送 一一、五 八、〇

平町田町 電話三三三番
丸登株式会社
川添房二郎

諸行無常の感深し 半歳間の浮き沈み

地租の増減から見て

平町土地の異動

唐様で書く三代目もなくとも永らく吹き捲くる不景氣風に組先傳來の土地はもとより家屋迄、二重にも三重にも借財のカタに當てては見たもの、遂に廻らぬ首の浮み様 もなく手に渡さねばならぬ破目に陥る向も少くなく一時は黄金の波打寄ると云はれた平町にも賣地や賣家の建札張札が所々方々に見受けられる事となつたが、一体本年の四月から十月一日迄の間に於ける土地所有者の異動はどんなものかと納税の増減に依つて

平土木豫算

八萬五千餘圓

平土木監督所管内の縣土木修理費は八萬五千餘圓であつて此豫算を編成し廿四日より開會さる、縣會に提出する筈だが重なる工事は夏

教員檢定試験

來月三日から

石城郡にては來月三日から六日間郡議事堂にて小學校教員檢定試験を施行する筈であるが志願者は高正十名尋正八名、專正八名、尋准五十五名である

貨車配給調査

昨日から視察

昨年大震災以來不況を續けて居た常磐炭も漸く需要期に向つて昨今稍活況を呈し

常磐片々

捕鯨の根據地を小名濱に定む、腹を減らして海路の日和を待て安し鯨肉がフンゲンに喰へる

古河炭礦が臨時に山神祭、サテは崇られたか

平町に昨今土地の賣買激し辛らくて賣る者、値切つて買ふ者、浮世はサマシ

川柳を平吟社が募集する

産業協議延期 平町産米改良協議會は十五日開

草野役場落成

本日開廳式

石城郡草野村にては役場及び駐在所を新築中の處此程工事落成し本日午後一時半から役場議事堂に於て開廳式を舉げられた

て來た爲め貨車配給の關係上各炭礦代表者は東京、仙台各礦務所員及び水戸仙台運輸事務所員と共に一行百七十八人は昨日から石城郡入山、磐城古河各炭礦を視察し初め詳細調査を爲すと

小名濱を捕鯨根據地

東洋捕鯨會社の計劃

大坂市に本社を有する東洋捕鯨會社にては石城郡小名濱町海岸埋立地に捕鯨根據地を設置し捕鯨事業を營む計劃にて高橋農相に願出たが同計劃は鯨體の處理貯藏及び製造等を目的とし許可後三ヶ月間に建設物其他機械器具の備付けを終る由である

所得税調査の決定に不服

申立不徹底

平稅務署管内に於ける本年度の第三種所得稅者二千九百八十五人中其筋の調査決定に不服なりとして異議の申立を爲したものの四件あり是等は何れも前年より増加の非を鳴らし漠然異議の申立を爲したもので結果稅務署



家庭欄

柿の澁抜法

見かけは一吋悪いが竹のすを作つて赤飯をふかす様に其すの上へ柿をのせ煮ゆ切

臨時山神祭

古河炭礦にて

石城郡好間村古河炭礦にては明十六日山神祭の臨時祭典を執行し余興に相撲や活動寫眞の催しがある

個人消息

永井德徳氏 (玉川村) 改選の結果七票の得點あり次點者は西九一氏の五票で永井氏再選さる

草野順平氏 (磐銀支配人) 仙台大學病院にて治療中の處經過頗る良好昨日退院し謙先温泉一條方にて保養中であるが今月末には歸平すると

白井博之氏 (本縣農銀頭取) 東京市に於て廿一日開會さるべき東部聯合農工銀行大會(關東、東北、長野縣)及び廿二日の全國農銀大會に出席の途次平町の縣下銀行同盟會に出席の

つた熱湯を充分ふり注いで固くフタをして置けば一晩の内に澁味がとれて甘い柿に變る、次ぎに見かけもよく味もよくするには焼酎を用ひる澁抜法がよい、これだと石油罐の入つた木の箱の外を新聞で充分目ばりをして空気を通らぬやうにして柿をつめて置いてこの箱に

豫想以上の成功を修む

石城桑園調査

既報石城郡桑園基本調査は去る一日現在にて執行されたが郡吏員の談に依れば何れも熱心に調査に従事し其精確を期さんとした爲め豫想以上の成功であつたが同調査に依つて見ると一面從來の統計がいかに杜撰であるかに一驚を喫すると

豫算整理

漁港修築難

石城郡小名濱の縣直營漁港工事を除く他の補助政策に

川柳を募集

たひら吟社が

平地方川柳同好者に依り組織さるゝたひら吟社にては來る廿八日本紙上に發表すべき川柳を募集するのであるが要領は四面の廣告欄に掲載

不平受付

投書歡迎 女生徒の作品 『平の教育』紙中の兒童の作品尋六女生徒の『秋の夕暮』は程

募集

文藝其他一般稿を募集し

一杯の柿だとすれば約三四合の焼酎をふりかけるか町寧なり方だとすれば一つ一つの柿のヘタに焼酎をつけて置けば早く一週間遅くも十日前後には立派に甘い柿に變る商賣人は主に焼酎をふりかける方法をとつて居るやうである

平町人事

出生

△四丁目 染野孫兵衛氏三男義亮
△北目町 渡邊長重郎氏二男英夫
△古鍛冶町 小谷勇太郎氏四男平四郎

△立町 飯島兵司三女ツク
△胡麻澤 大方慶藏氏六女イネ
△胡麻澤 高田西之助氏長女末子
△二丁目 正木武司氏長男武義
△鎌田町 飯岡金太郎氏三男宗一

婚姻

▲新川町 高野德重氏(二)相馬郡中村坂地(一)〇〇

計△鍛冶町吉田爲吉氏は九日田町にて腕時計を夫々拾得平署に届けられた